

Y08b 地域貢献特別支援事業を活用した、大学生・大学院生によるサイエンスコミュニケーション活動の促進と実践

松井瀬奈 (名古屋大学, Ruhr University Bochum), 中島光一郎, 佐藤伸成 (名古屋大学), 他名古屋大学学生アウトリーチ研究会 IGNIMUS メンバー

名古屋大学では毎年「地域貢献特別支援事業」と称し自治体や学外団体と連携した企画に対し支援を行っている。大学での研究に社会からの理解を得たり、若い世代に早い段階から研究に興味を持ってもらうことが主な目的である。2023年4月に我々が発足した「名古屋大学学生アウトリーチ研究会 IGNIMUS」には様々な専門分野の学生が所属しているが、特に理学研究科、工学研究科、さらには人文学研究科といった多様な研究科で天文・宇宙・宇宙工学に携わる学生が多く在籍する。本団体は曾イ講師、郭佳寧特任准教授(人文学研究科)、Grib Dina 講師(工学研究科)らと共に「大学院生による次世代研究者インキュベーション事業」を令和5年度本事業へ申請し、採択された。多くの大学院生がアウトリーチ活動の重要性を認知しているものの実際には行なっていない理由の一つとして、アウトリーチ活動に必要なスキルが身に付いていないことが挙げられる。学生が「専門外の人に分かりやすく、かつ興味を誘うプレゼンテーション」を行うため、専門分野の充実はもちろんのこと表現力を磨くことに焦点を充て、より魅力的な研究発信を促すワークショップを全4回主催した。さらにこれらのワークショップで得たスキルを活かし、東海地方の中高校生に向けてアウトリーチ活動を行なった。具体的には地域イベントへの参加や、中高生向け進路相談イベントの主催、地域の科学館との天文・宇宙に特化したコラボレーション等、一般市民、特に地域の子供たちへ天文学をはじめとするサイエンスのおもしろさを伝える活動を幅広く実施した。本発表ではこれらの活動結果に関して報告と議論を行う。